

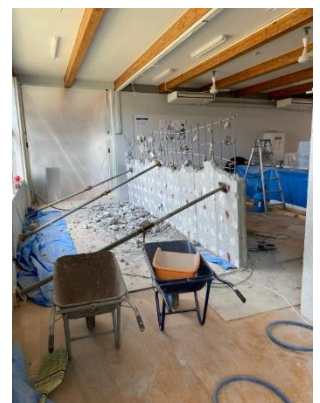


長い夏休みも間もなく終わります。生徒の皆さんにとってはどのような夏休みだったでしょうか。間もなくはじまる2学期に向け、少しずつ夏休み中の生活リズムから普段の学校のリズムになじむように心や体を慣れさせて、9月1日より充実した気持ちで2学期をスタートできるようにしてください。

夏休みには、部活動や福祉体験、三中交流会、地域の祭り等でのボランティア活動、サマーキャンプのサブリーダー、その他の活動でたくさんの生徒の皆さんが積極的に活動・活躍する姿がみられました。今年は中体連の地区大会での健闘や県大会、東海大会そして中国地方で開催された全国大会にまでこまをすすめた生徒の皆さんもいました。9月1日の始業式で入賞された生徒の皆さんの表彰を行います。

一方、夏休み中に千葉県では、今月13日夕方から14日朝にかけて、線状降水帯が相次いで発生し、多数の方が犠牲になった豪雨災害がありました。また、7月28日熊本県で発生した令和8年熊本地震（最大震度7）では、死者を含む人的被害が402人、3万8千棟以上の住宅が被害にあい、現在も2600人以上の方が避難されているという状況です。

このような中、本校の小濱裕之先生は、熊本地震に係る三重県災害時学校支援チーム隊員の一人として、8月16日（日）～22日（土）の7日間、熊本県宇城市へ災害地の支援に出かけていただきました。小濱先生は、宇城市内の被災した小中学校の支援、整備にあられたそうです。小濱先生からは、「運動場は穴が空いていたり、地割れがあったりして危険な状態である。電柱も倒れそうだし、石碑は倒れている。避難訓練で重要な逃げ場所がこんな状態になるのだと驚いた。体を動かしたい運動部や、遊びたい小学生の気持ちもわかるが…とりあえず危険な場所には入らないようにバリケードを設置した。体育館にはまだ危険なため入れなかった。窓ガラスは割れ、物は散乱している様子は外からもわかった。避難所になんて



できるわけがない。」と被災地現場の大変な状況を伝えていただきました。

小濱先生のお話を伺っていると、このほかにも、教室の黒板がはずれ教室内でとんでいたたり、避難経路が地割れで危険であったりなど自分たちの予想以上のことが起こっているとの話を聞きました。学校でも日ごろからこのようなことを想定した避難訓練が必要であると実感しました。



また、小濱先生は今回の熊本地震の支援だけでなく、2024年（令和6年）1月に発生した能登半島地震、2016年（平成28年）4月に発生した熊本地震2014年（平成26年）8月の広島市豪雨災害においても、被災地の支援にあたられました。今年の夏は熊本は気温40度近くの酷暑でした。ご家族の協力も得て支援に参加されて見えるのだと思います。このような小濱先生の姿や生き方から、私たちはたくさんの学ぶべきことがあると感じています。

熱中症対策について

今年も、9月以降、熱中症の危険が極めて高い状況が継続するとされています。本校では熱中症対策として、毎日の登下校時の帽子・冷却タオル・クールリングの着用の推奨、スポーツドリンクの持参許可や経口補水液等の準備、冷水器の設置対策のほか、日傘・遮熱帽子の使用、下校時の水筒への水分補充も推奨していきます。また、体調が悪くなった場合は、生徒の皆さんが下記の場所でクールダウンや水分補充を行うことができるよう地域や関係機関に依頼をしていますので、必要に応じて利用させていただき、命を大切にする行動をとりましょう。また、利用の際にはマナー等にも気を付けるようにしてください。また、熱中症予防として、十分な睡眠、朝食をしっかりとることに心がけてください。

○通学路途上にある避難場所設置

①コミュニティセンター（井田川北・井田川南・川崎・野登）

②北東分署 ③川崎駐在所 ④彩電館かわと

上記の場所の確認に重ねて、登下校中に体調不良等の緊急時の場合は、上記の場所に限らず、近くの人やSOSの家、民家・事業所等に助けを求める行動をとるようにしましょう。